＜日本剣道形＞

○　重点事項

①　立会前後の所作、立会の所作、刀の取り扱い
②　正しい刀・木刀の操作（刃筋、手の内、鎬の使い方、一拍子の技）体さばき
③　打太刀、仕太刀の関係（本体と影）を理解し、呼吸を合わせる
④　打太刀は間合いに接したとき、気を捉えて打突部位を正しく打突し、仕太刀は勝機を逃すことなく、打突部位を正しく打突する
⑤　目付け、呼吸、残心を心得て、気を緩めることなく、終始充実した気迫で行う

○　基本的な留意点

①　解説書等を熟読・精通して「剣の理法」に基づく剣道形を体得する。
②　一拍子の打突や体さばきを正しく行い、特に小太刀の置き方に留意する。
③　五行の構えと小太刀の半身の構え、そして、入り身の所作を自得する。
④　師と弟子の位を理解し、呼吸を合わせ、合気となり、充実した気勢で行う。
⑤　機（＝「心と体と術」の変わり際の変化）を見て、打つ（＝切る）こと。
⑥　遠山の目付で行い、振りかぶった剣先が両拳より下がらない。
⑦　すり足で行い音を立てず、一方の足を移動させれば、他方の足も移動させる。
⑧　残心は、形に表すか否かに係わらず、「十分な気位」で残心を示すこと。
⑨　技に応じて緩急強弱を心得、丹田に気迫を込めて「呼気の気勢」で打突する。
⑩　初めの座礼から、終わりの座礼まで、気を緩めず、終始充実した気勢で行う。

○　日本剣道形の共通理解

①　中段の構えの延長とは、棟の鍔元と切っ先を直線で結んだ延長をいう。

②　太刀一本目、打太刀正面打ち（臍まで切る）を抜かれた剣先は下段程度

③　太刀四本目、双方切り結ぶ位置は、およそ刀の中央部、剣先は正面の高さ

④　太刀五本目、仕太刀の中段の構えは、一拳前に出し、刃先はやや斜め下

⑤　太刀六本目、仕太刀がすり上げ小手を打ったとき、右足を踏み出し左足を引きつけるを原則とするが、間合いによって引きつけなくても、踏み出したと解釈する
⑥　太刀七本目、仕太刀がすれ違いながら胴を打つときの方法。
　a　右足を右前に開いたとき、刀を左肩上に振り上げ、
　　左足を踏み出すと同時に胴を打つ、
　b　右足を開いても（体は移動させない）刀を振り上げず
　　左足を踏み出すと同時に、振り上げ振り下ろす一拍子で打つ、方法
　※　修練者の練度に応じて指導する

⑦　小太刀半身の構えの刃先の方向
　a　中段半身の構えは、刃先をやや斜め下に向ける
　b　下段半身の構えは、刃先は真下とする

～　我が国の伝統文化として、次代に正しく、継承しなければならない　～